

大阪市保育施設等の利用調整に関する事務取扱要綱の一部を改正する要綱（案）

「大阪市保育施設等の利用調整に関する事務取扱要綱」の一部を次のように改正する。

下線部は修正箇所、二重下線は追加・移動・削除箇所

改正後	改正前
大阪市保育施設等の利用調整に関する事務取扱要綱 [第1条～第7条 略] (保育士等の優先) 第7条の2 <u>利用申込児童</u>の保護者のいずれかが保育士（大阪府内に係る国家戦略特別区域限定保育士を含む。）であって、大阪市内に所在する保育施設等（利用開始希望日において法第27条第1項又は第29条第1項の確認を受ける見込みであるものを<u>含む</u>。次項において同じ。）において直接雇用により利用開始希望日の属する月において120時間以上の勤務が見込まれるために利用調整申請があった場合、第4条第1項の規定にかかわらず、当該児童について、前条の規定による利用調整に次いで優先的に利用調整を行う。 2 前項の規定は、<u>児童福祉施設の設備及び運営に関する基準（昭和23年厚生省令第63号）、家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準（平成26年厚生労働省令第61号）、幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準（平成26年内閣府・文部科学省・厚生労働省令第1号）又は就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第3条第2項及び第4項の規定に基づき内閣総理大臣及び文部科学大臣が定める施設の設備及び運営に関する基準（平成26年内閣府・文部科学省・厚生労働省告示第2号）の規定により、利用調整時点において利用申込児童の保護者のいずれかが、利用開始希望日の属する月において勤務することが見込まれる保育施設等において、保育士とみなし、又は保育士の資格を有する者に代えることができる場合について準用する。ただし、対象となる保護者が次の各号のいずれかに該当する場合を除く。</u> (1) <u>児童福祉施設の設備及び運営に関する基準附則第96条又は家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準附則第6条の規定により保育士とみなされる者である場合</u> (2) <u>幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準附則第7条又は就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第3条第2項及び第4項の規定に基づき内閣総理大臣及び文部科学大臣が定める施設の設備及び運営に関する基準附則第6項の規定により保育士の資格を有する者に代えることができる者である場合</u> [削る] <u>3 第1項</u>の規定による利用調整について、対象の利用申込児童が複数である場合は、別表「保育利用調整基準」に基づき保育の必要性の高い児童から順に利用調整を行うものとする。 [第8条～第12条 略]	大阪市保育施設等の利用調整に関する事務取扱要綱 [第1条―第7条 同左] (保育士等の優先) 第7条の2 <u>申込児童</u>の保護者のいずれかが保育士（大阪府内に係る国家戦略特別区域限定保育士を含む。）であって、大阪市内に所在する保育施設等（利用開始希望日において法第27条第1項又は第29条第1項の確認を受ける見込みであるものを<u>含む</u>。）において直接雇用により勤務する（月20日以上、かつ、<u>週30時間以上若しくは週5日以上、かつ、日6時間以上勤務する又は勤務予定である場合に限る。</u>）ために利用調整申請があった場合、第4条第1項の規定にかかわらず、当該児童について、前条の規定による利用調整に次いで優先的に利用調整を行う。 2 前項の規定は、<u>申込児童の保護者のいずれかが保健師、看護師又は准看護師である場合について準用する。この場合において、前項の規定中「保育施設等」とあるのは、「保育施設等（家庭的保育事業及び小規模保育事業C型を除く。）」と読み替えるものとする。</u> [新設] [新設] <u>3</u> 第1項の規定は、申込児童の保護者のいずれかが幼稚園教諭、小学校教諭又は養護教諭である場合について準用する。この場合において、第1項の規定中「保育施設等」とあるのは、「保育施設等（保育施設等（家庭的保育事業、小規模保育事業B型、小規模保育事業C型、小規模型事業所内保育事業B型を除く。））」と読み替えるものとする。 <u>4 第1項から前項まで</u>の規定による利用調整について、対象児童が複数いる場合は、別表「保育利用調整基準」に基づき保育の必要性の高い児童から順に利用調整を行うものとする。 [第8条～第12条 同左]

別表 保育利用調整基準

[略]

(1)基本点数表

事 由 (保育の必要性)	基本 点数	父 母 (※1) が保育できない理由・状況
1. 就 労 ※2	100	月160時間以上働いている。
	90	月120時間以上働いている。
	80	月96時間以上働いている。
	70	月64時間以上働いている。
	60	月48時間以上働いている。(内職を含む)
2. 就 労 内 定 ※2	90	月160時間以上の仕事に内定している。
	80	月120時間以上の仕事に内定している。
	70	月96時間以上の仕事に内定している。
	60	月64時間以上の仕事に内定している。
	50	月48時間以上の仕事に内定している。(内職を含む)
3. 出 産	40	母が出産予定日前8週間(多胎妊娠の場合は14週間)及び出産後8週間の期間にあって、出産の準備又は休養を要する。
4. 疾病など	100	疾病などにより、6か月以上の期間入院または入院に相当する治療や安静を要し、保育が常時困難な場合。
	70	疾病などにより、常に安静を要するなど、保育が著しく困難な場合。
	50	疾病などにより、保育に支障がある場合。
5. 障がい	100	身体障がい者手帳1～2級、精神障がい者保健福祉手帳1級、療育手帳Aの交付を受けていて、保育が常時困難な場合。
	90	複数の障がい手帳の交付を受けていて、保育が常時困難な場合。
	80	身体障がい者手帳3級、精神障がい者保健福祉手帳2級、療育手帳B1の交付を受けていて、保育が著しく困難な場合。
	60	身体障がい者手帳4～6級、精神障がい者保健福祉手帳3級、療育手帳B2の交付を受けていて、保育が困難な場合。
6. 介護・看護	90	臥床者・重症心身障がい児(者)の看護・介護や入院・通院・通所の付き添いのため、常時保育が困難な場合。
	70	病人や障がい者の介護や入院・通院・通所の付き添いのため、月16日以上かつ週24時間以上保育が困難な場合。
	50	病人や障がい者の介護や入院・通院・通所の付き添いのため、前2項目に該当しない範囲で保育に支障がある場合。
7. 災害	100	震災、風水害、火災その他の災害により自宅や近隣の復旧に当たっている場合。
8. 就 学	60	職業訓練校、専門学校、大学等に月16日以上かつ週16時間以上就学している。
	40	職業訓練校、専門学校、大学等に、上記に該当しない範囲で就学している。
	30	職業訓練校、専門学校、大学等に就学予定である。

別表 保育利用調整基準

[同左]

(1)基本点数表

事 由 (保育の必要性)	基本 点数	父 母 (※1) が保育できない理由・状況
1. 就 労 ※2	100	月160時間以上働いている。
	90	月120時間以上働いている。
	80	月96時間以上働いている。
	70	月64時間以上働いている。
	60	月48時間以上働いている。(内職を含む)
2. 就 労 内 定 ※2	90	月160時間以上の仕事に内定している。
	80	月120時間以上の仕事に内定している。
	70	月96時間以上の仕事に内定している。
	60	月64時間以上の仕事に内定している。
	50	月48時間以上の仕事に内定している。(内職を含む)
3. 出 産	40	母が出産予定日前8週間(多胎妊娠の場合は14週間)及び出産後8週間の期間にあって、出産の準備又は休養を要する。
4. 疾病など	100	疾病などにより、6か月以上の期間入院または入院に相当する治療や安静を要し、保育が常時困難な場合。
	70	疾病などにより、常に安静を要するなど、保育が著しく困難な場合。
	50	疾病などにより、保育に支障がある場合。
5. 障がい	100	身体障がい者手帳1～2級、精神障がい者保健福祉手帳1級、療育手帳Aの交付を受けていて、保育が常時困難な場合。
	90	複数の障がい手帳の交付を受けていて、保育が常時困難な場合。
	80	身体障がい者手帳3級、精神障がい者保健福祉手帳2級、療育手帳B1の交付を受けていて、保育が著しく困難な場合。
	60	身体障がい者手帳4～6級、精神障がい者保健福祉手帳3級、療育手帳B2の交付を受けていて、保育が困難な場合。
6. 介護・看護	90	臥床者・重症心身障がい児(者)の看護・介護や入院・通院・通所の付き添いのため、常時保育が困難な場合。
	70	病人や障がい者の介護や入院・通院・通所の付き添いのため、月16日以上かつ週24時間以上保育が困難な場合。
	50	病人や障がい者の介護や入院・通院・通所の付き添いのため、前2項目に該当しない範囲で保育に支障がある場合。
7. 災害	100	震災、風水害、火災その他の災害により自宅や近隣の復旧に当たっている場合。
8. 就 学	60	職業訓練校、専門学校、大学等に月16日以上かつ週16時間以上就学している。
	40	職業訓練校、専門学校、大学等に、上記に該当しない範囲で就学している。
	30	職業訓練校、専門学校、大学等に就学予定である。

9. ひとり親 ※2	100	ひとり親世帯等で、月64時間以上働いている。
	100	ひとり親世帯等で、月160時間以上の仕事に内定している。
	90	ひとり親世帯等で、月64時間以上の仕事に内定している。又は月48時間以上働いている。
	90	ひとり親世帯等で、職業訓練校、専門学校、大学等に月16日以上かつ週16時間以上就学している。
	80	ひとり親世帯等で、月48時間以上の仕事に内定している。
	70	ひとり親世帯等で、職業訓練校、専門学校、大学等に月16日以上かつ週16時間未満の範囲で就学している。
	60	ひとり親世帯等で、求職活動を行うことにより保育ができない場合。
	60	ひとり親世帯等で、職業訓練校、専門学校、大学等に就学予定である。
10. 求職中 (利用期間は 原則90日間と する)	60	生計中心者が失業し、求職中である場合。(申込時点より過去3か月以内)※3
	50	生活保護世帯で、保育の実施により自立が見込まれる場合。
	30	上記の世帯以外で、求職中である場合。
11. 市外在住	20	大阪市外に在住している場合。(転入予定者は除く。) ※4
12. 転所希望	※5	保育施設を利用している若しくは利用調整時点において保育施設に内定中であり、他の保育施設又は保育事業の利用を希望する場合。又は、保育事業を利用している若しくは利用調整時点において保育事業に内定中であり、他の保育事業の利用を希望する場合。(いずれも卒園児を除く。) ※7
13. その他	※6	障がい児や支援を要する児童など、児童福祉の観点から保育の必要性が高いと保健福祉センター所長が認める場合。

(備考)

- 別途定めのある場合を除き、利用開始希望日を基準日とする。
- 父母が保育できない理由・状況に応じ、上の基本点数を設定する。
- 父母それぞれの基本点数の合算を、利用申込児童の基本点数とする。
- ひとり親世帯等については、当該ひとり親等の基本点数と100点との合算を、利用申込児童の基本点数とする。
- 父母が複数の事由に該当する場合は、各々について基本点数が高い方の要件を採用する。
- 就労時間については、就労証明書に記載された就労実績(見込みである場合を含む。)の平均値により判断する。ただし、各月の就労実績間に著しい差がある場合その他これによりがたい事情が認められる場合は、当該事情を勘案した上で就労実績を踏まえて判断することができる。
- 利用調整時点(利用開始希望日が4月1日の利用申込みにかかる利用調整においては、別途定める時点)において、育児休業中の場合、労働契約上の本来の就労時間等により判断する。ただし、記載された就労実績が当該就労時間を明らかに上回る場合その他これによりがたい事情が認められる場合は、当該事情を勘案した上で就労実績を踏まえて判断することができる。
- 育児のための短時間勤務制度等を利用している場合であっても、労働契約上の本来の就労時間により判断する。

(注釈)

- ※1 父母がいない場合は、その他の保護者とする。
- ※2 事由1、2及び9の就労時間数は全て休憩時間を含むものとする。また、利用調整時点において就労の事実が確認できない場合は、就労内定扱いとする。
- なお、利用調整に必要な書類に不足がある場合(不備があり、保健福祉センター所長が指定する期日までに当該不備の補正が行われない場合を含む。)は、各事由の最低点数をもって基本点数とする。
- ※3 自己都合による退職に伴う失業は含まない。
- ※4 市外在住の場合は、父母の保育できない理由・状況にかかわらず、「11. 市外在住」が適用される。
- ※5 やむを得ないと認められる場合を除き、事由1～11に基づき算出した利用申込児童の基本点数に0.5をかけた点数を適用する。
- ※6 当該児童・世帯の状況に応じ、別途判断する。
- ※7 令和8年3月31日までに保育施設の利用を開始した児童の転所希望に係る本項目の取扱いについては、なお従前の例による。

9. ひとり親 ※2	100	ひとり親世帯等で、月64時間以上働いている。
	100	ひとり親世帯等で、月160時間以上の仕事に内定している。
	90	ひとり親世帯等で、月64時間以上の仕事に内定している。又は月48時間以上働いている。
	90	ひとり親世帯等で、職業訓練校、専門学校、大学等に月16日以上かつ週16時間以上就学している。
	80	ひとり親世帯等で、月48時間以上の仕事に内定している。
	70	ひとり親世帯等で、職業訓練校、専門学校、大学等に月16日以上かつ週16時間未満の範囲で就学している。
	60	ひとり親世帯等で、求職活動を行うことにより保育ができない場合。
	60	ひとり親世帯等で、職業訓練校、専門学校、大学等に就学予定である。
10. 求職中 (利用期間は 原則90日間と する)	60	生計中心者が失業し、求職中である場合。(申込時点より過去3か月以内)※3
	50	生活保護世帯で、保育の実施により自立が見込まれる場合。
	30	上記の世帯以外で、求職中である場合。
11. 市外在住	20	大阪市外に在住している場合。(転入予定者は除く。) ※4
12. 転所希望	※5	保育施設を利用している若しくは利用調整時点において保育施設に内定中であり、他の保育施設又は保育事業の利用を希望する場合。又は、保育事業を利用している若しくは利用調整時点において保育事業に内定中であり、他の保育事業の利用を希望する場合。(いずれも卒園児を除く。) ※7
13. その他	※6	障がい児や支援を要する児童など、児童福祉の観点から保育の必要性が高いとセンター所長が認める場合。

(備考)

- 別途定めのある場合を除き、利用開始希望日を基準日とする。
- 父母が保育できない理由・状況に応じ、上の基本点数を設定する。
- 父母それぞれの基本点数の合算を、利用申込み児童の基本点数とする。
- ひとり親世帯等については、当該ひとり親等の基本点数と100点との合算を、利用申込み児童の基本点数とする。
- 父母が複数の事由に該当する場合は、各々について基本点数が高い方の要件を採用する。
- 就労時間については、就労証明書に記載された就労実績(見込みである場合を含む。)の平均値により判断する。ただし、各月の就労実績間に著しい差がある場合その他これによりがたい事情が認められる場合は、当該事情を勘案した上で就労実績を踏まえて判断することができる。
- 利用調整時点(利用開始希望日が4月1日の利用申込みにかかる利用調整においては、別途定める時点)において、育児休業中の場合、労働契約上の本来の就労時間等により判断する。ただし、記載された就労実績が当該就労時間を明らかに上回る場合その他これによりがたい事情が認められる場合は、当該事情を勘案した上で就労実績を踏まえて判断することができる。
- 育児のための短時間勤務制度等を利用している場合であっても、労働契約上の本来の就労時間により判断する。

(注釈)

- ※1 父母がいない場合は、その他の保護者とする。
- ※2 事由1、2及び9の就労時間数は全て休憩時間を含むものとする。また、利用調整時点において就労の事実が確認できない場合は、就労内定扱いとする。
- なお、利用調整に必要な書類に不足がある場合(不備があり、保健福祉センター所長が指定する期日までに当該不備の補正が行われない場合を含む。)は、各事由の最低点数をもって基本点数とする。
- ※3 自己都合による退職に伴う失業は含まない。
- ※4 市外在住の場合は、父母の保育できない理由・状況にかかわらず、「11. 市外在住」が適用される。
- ※5 やむを得ないと認められる場合を除き、事由1～11に基づき算出した利用申込児童の基本点数に0.5をかけた点数を適用する。
- ※6 当該児童・世帯の状況に応じ、別途判断する。
- ※7 令和8年3月31日までに保育施設の利用を開始した児童の転所希望に係る本項目の取扱いについては、なお従前の例による。

(2)調整指数表

	内 容	指数	該当する事由
保育の代替手段 (右記のうち主たるもの1項目のみを適用)	児童を65歳未満の別居(保護者住所地从からおむね1km圏内に居住)の祖父母等に預けることが可能である。(当該祖父母等が求職中である場合を含む) ※1	-3	
	児童を20歳以上65歳未満の同居の親族(祖父母等・おじ・おば・きょうだい)に預けることが可能である。(当該親族が求職中である場合を含む) ※1	-7	
	保育施設又は保育事業の卒園児。(利用申込みのあった年度の年度末に卒園予定の児童に限る。ただし卒園後の受入施設としての連携施設(保育施設に限る)を優先利用することが内定している場合を除く) ※2	6	
	育児休業取得時に保育施設又は保育事業を退所し、復職時に利用申込みをする場合。 ※3	7	
	育児休業取得中に保育施設又は保育事業を卒園した後、保育施設又は保育事業を利用していなかった児童について、復職時に利用申込みをする場合。 ※4	4	
	利用申込時点で、申込事由を理由として、児童が保育施設・保育事業に該当しない保育サービス(企業主導型保育事業、親族委託及び一時預かりを除く)を週3日以上、有償で利用している場合。 ※5 ※6 ※7	5	
	利用申込時点で、前項目の期間が6か月以上の場合。(前項目と重複しての加点は行わない) ※5 ※6 ※8	7	10. 求職中を除く
	利用申込時点で企業主導型保育事業を利用中の児童であって、当該企業主導型保育事業において利用定員の設定等の事情により、利用申込みのあった年度の年度末に利用終了予定となる者について、利用開始希望日を利用終了予定日の翌日とする利用申込みをする場合。(保育施設・保育事業の利用が内定している場合を除く) ※5 ※9	5	
世帯の状況	利用申込時点で、児童を同伴就労しており、職種により危険を伴う(児童が保育されている場所において、通常家庭で存在し得ない危険物を扱う)場合。 ※5	3	
	保護者が身体障がい者手帳1～2級、精神障がい者保健福祉手帳1級、療育手帳Aの交付を受けている場合。 ※10	5	5. 障がい を除く
	保護者が身体障がい者手帳3級以下、精神障がい者保健福祉手帳2級以下、療育手帳B1以下の交付を受けている場合。 ※10	3	
	同居の家族内に身体障がい者手帳3級以上、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳所持者がいて週3日以上介護している場合。(当該児童又は保護者がこれらの手帳を所持している場合は除く)または同居の家族内に要介護1以上の認定者がいて週3日以上介護している場合。 ※11	2	6. 介護・看護 を除く
	別居の家族内に身体障がい者手帳3級以上、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳所持者がいて週3日以上介護している場合。(当該児童又は保護者がこれらの手帳を所持している場合は除く)または別居の家族内に要介護1以上の認定者がいて週3日以上介護している場合。 ※11	1	
	世帯に看護・介護の必要な家族が複数人いる場合。	3	6. 介護・看護のみ
	通信制大学、通信教育の学生である。	-5	8. 就学 9. ひとり親で就学のみ
	ひとり親世帯等。	9	9. ひとり親を除く
就労状況	単身赴任。(国外)	8	
	単身赴任。(国内)	6	
	両親の勤務時間(通勤時間及び残業時間を含まない)により、利用可能な保育施設又は保育事業が夜間保育所又は夜間保育所と同等の時間帯において利用可能な保育事業に限定される場合。	4	
	就労内定のうち、就労開始時期が未定のもの。	-6	
	求職活動状況を証明する書類の提出がある場合。	2	9. ひとり親で求職中 10. 求職中のみ
きょうだいの状況	双子が同時に <u>利用申込み</u> をする場合。(三つ子以上の場合は、1人増えるごとに1点を加算する)	3	
	保育施設又は保育事業を利用中の児童以外の児童の育児休業取得時に当該保育施設又は保育事業を退所し、復職時に利用申込みをする場合で、育児休業の対象になったきょうだいも同時に利用申込みをする場合。 ※3	8	
	育児休業取得中に保育施設又は保育事業を卒園した後、保育施設又は保育事業を利用していなかった児童について、復職時に利用申込みをする場合で、育児休業の対象になったきょうだいも同時に利用申込みをする場合。 ※4	4	
	利用調整時点において、きょうだいが利用中の保育施設又は保育事業の利用を希望する場合。(当該保育施設又は保育事業の利用調整においてのみ加点の対象とする。また、保育施設又は保育事業を利用中のきょうだいが利用開始希望日において卒園している場合には加点は行わない。なお、次2項と重複しての加点は行わない) ※12	7	
	利用調整時点において、きょうだいのうち2人以上が保育施設又は保育事業を利用しており、その他のきょうだいが新規で利用申込みをする場合において、きょうだいが利用中の保育施設又は保育事業の利用を希望する場合。(当該保育施設又は保育事業の利用調整においてのみ加点の対象とする。保育施設又は保育事業を利用中のきょうだいが利用開始希望日において卒園している場合にはきょうだいの人数には含めない) ※12	10	
	利用調整時点において、きょうだいのうち1人が保育施設又は保育事業を利用しており、その他のきょうだい2人以上が新規で同時に利用申込みをする場合において、当該申込みをするもののうち出生順で2番目以降のものが、きょうだいが利用中の保育施設又は保育事業の利用を希望する場合。(当該保育施設又は保育事業の利用調整においてのみ加点の対象とする。保育施設又は保育事業を利用中のきょうだいが利用開始希望日において卒園している場合にはきょうだいの人数には含めない) ※12	10	
	きょうだい3人以上が新規で同時に <u>利用申込み</u> をする場合において、当該利用申込みするもののうち出生順で3番目以降のもの。 ※12	10	
	未就学のきょうだいを保護者等が保育している場合。(当該きょうだいが保育施設又は保育事業の利用が不可能な月齢である場合及び介護・看護の対象児童である場合を除く)	-4	
その他	正当な理由なく保育施設又は保育事業の利用内定を辞退するなど、公正な利用調整に支障を来すような行為を行った場合。(利用開始希望日が同一年度内の利用申込みに限る)	-5	
	児童の家庭状況等から保健福祉センター所長が特に必要と認める場合。	※13	

(2)調整指数表

	内 容	指数	該当する事由
保育の代替手段 (右記のうち主たるもの1項目のみを適用)	児童を65歳未満の別居(保護者住所地从からおむね1km圏内に居住)の祖父母等に預けることが可能である。(当該祖父母等が求職中である場合を含む) ※1	-3	
	児童を20歳以上65歳未満の同居の親族(祖父母等・おじ・おば・きょうだい)に預けることが可能である。(当該親族が求職中である場合を含む) ※1	-7	
	保育施設又は保育事業の卒園児。(利用申込みのあった年度の年度末に卒園予定の童に限る。ただし卒園後の受入施設としての連携施設(保育施設に限る)を優先利用することが内定している場合を除く) ※2	6	
	育児休業取得時に保育施設又は保育事業を退所し、復職時に利用申込みをする場合。 ※3	7	
	育児休業取得中に保育施設又は保育事業を卒園した後、保育施設又は保育事業を利用していなかった児童について、復職時に利用申込みをする場合。 ※4	4	
	利用申込時点で、申込事由を理由として、児童が保育施設・保育事業に該当しない保育サービス(親族委託、一時預かりを除く)を週3日以上、有償で利用している場合。 ※5 ※6 ※7	5	
	利用申込時点で、前項目の期間が6ヶ月以上の場合。(前項目と重複しての加点は行わない) ※5 ※6 ※8	7	10. 求職中を除く
	[新設]	[新設]	
世帯の状況	利用申込み時点で、児童を同伴就労しており、職種により危険を伴う(児童が保育されている場所において、通常家庭で存在し得ない危険物を扱う)場合。 ※5	3	
	保護者が身体障がい者手帳1～2級、精神障がい者保健福祉手帳1級、療育手帳Aの交付を受けている場合。 ※9	5	5. 障がい を除く
	保護者が身体障がい者手帳3級以下、精神障がい者保健福祉手帳2級以下、療育手帳B1以下の交付を受けている場合。 ※9	3	
	同居の家族内に身体障がい者手帳3級以上、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳所持者がいて週3日以上介護している場合。(当該児童又は保護者がこれらの手帳を所持している場合は除く)または同居の家族内に要介護1以上の認定者がいて週3日以上介護している場合。 ※10	2	6. 介護・看護 を除く
	別居の家族内に身体障がい者手帳3級以上、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳所持者がいて週3日以上介護している場合。(当該児童又は保護者がこれらの手帳を所持している場合は除く)または別居の家族内に要介護1以上の認定者がいて週3日以上介護している場合。 ※10	1	
	世帯に看護・介護の必要な家族が複数人いる場合。	3	6. 介護・看護のみ
	通信制大学、通信教育の学生である。	-5	8. 就学 9. ひとり親で就学のみ
	ひとり親世帯等。	9	9. ひとり親を除く
就労状況	単身赴任。(国外)	8	
	単身赴任。(国内)	6	
	両親の勤務時間(通勤時間及び残業時間を含まない)により、利用可能な保育施設又は保育事業が夜間保育所又は夜間保育所と同等の時間帯において利用可能な保育事業に限定される場合。	4	
	就労内定のうち、就労開始時期が未定のもの。	-6	
	求職活動状況を証明する書類の提出がある場合。	2	9. ひとり親で求職中 10. 求職中のみ
きょうだいの状況	双子が同時に <u>申込み</u> をする場合。(三つ子以上の場合は、1人増えるごとに1点を加算する)	3	
	保育施設又は保育事業を利用中の児童以外の児童の育児休業取得時に当該保育施設又は保育事業を退所し、復職時に利用申込みをする場合で、育児休業の対象になったきょうだいも同時に利用申込みをする場合。 ※3	8	
	育児休業取得中に保育施設又は保育事業を卒園した後、保育施設又は保育事業を利用していなかった児童について、復職時に利用申込みをする場合で、育児休業の対象になったきょうだいも同時に利用申込みをする場合。 ※4	4	
	利用調整時点において、きょうだいが利用中の保育施設又は保育事業の利用を希望する場合。(当該保育施設又は保育事業の利用調整においてのみ加点の対象とする。また、保育施設又は保育事業を利用中のきょうだいが利用開始希望日において卒園している場合には加点は行わない。なお、次2項と重複しての加点は行わない) ※11	7	
	利用調整時点において、きょうだいのうち2人以上が保育施設又は保育事業を利用しており、その他のきょうだいが新規で利用申込みをする場合において、きょうだいが利用中の保育施設又は保育事業の利用を希望する場合。(当該保育施設又は保育事業の利用調整においてのみ加点の対象とする。保育施設又は保育事業を利用中のきょうだいが利用開始希望日において卒園している場合にはきょうだいの人数には含めない) ※11	10	
	利用調整時点において、きょうだいのうち1人が保育施設又は保育事業を利用しており、その他のきょうだい2人以上が新規で同時に利用申込みをする場合において、当該申込みをするもののうち出生順で2番目以降のものが、きょうだいが利用中の保育施設又は保育事業の利用を希望する場合。(当該保育施設又は保育事業の利用調整においてのみ加点の対象とする。保育施設又は保育事業を利用中のきょうだいが利用開始希望日において卒園している場合にはきょうだいの人数には含めない) ※11	10	
	きょうだい3人以上が新規で同時に <u>利用申込み</u> する場合において、当該利用申込みするもののうち出生順で3番目以降のもの。 ※11	10	
	未就学のきょうだいを保護者等が保育している場合。(当該きょうだいが保育施設又は保育事業の利用が不可能な月齢である場合及び介護・看護の対象児童である場合を除く)	-4	
その他	正当な理由なく保育施設又は保育事業の利用内定を辞退するなど、公正な利用調整に支障を来すような行為を行った場合。(利用希望日が同一年度内の利用申込みに限る)	-5	
	児童の家庭状況等からセンター所長が特に必要と認める場合。	※12	

(備考) 別途定めのある場合を除き、利用開始希望日を基準日とする。 (注釈) ※1 20歳以上65歳未満の同居の親族(祖父母等・おじ・おば・きょうだい)又は保護者住所地からおおむね1km圏内に居住する祖父母等があり、保育ができない場合は、これらの者についても保育の必要性を証明する書類を提出すること。提出がない場合は、原則として、これらの者に預けることが可能と判断する。 ※2 卒園後、保育認定を受け利用申込みを継続しているものの保育施設又は保育事業の利用が保留となっている場合は、当該年度以降も引き続き加点の対象とする。 ※3 産前産後休暇取得中を含み、育児休業の開始日の前日が属する月の月末までに保育施設又は保育事業を退所した場合に加点の対象とする。 ※4 育児休業中に卒園することが見込まれており、前記項目の適用期間終了後、自主的に卒園を待たずに退所したものを含む。この場合において本来の卒園月の翌月までの利用調整では、加点の対象とはしない。 ※5 利用申込みについて保留となった場合、当該利用申込みにかかる同一年度内の利用調整においては、「利用申込時点」を「利用調整時点」に読み替える。 ※6 基本点数表において「1. 就労」「9. ひとり親(就労に関する項目に限る)」を適用する場合、「当該サービスの利用開始日」又は「就労開始日(復職日を含む。)」の1か月前の日の翌日」のいずれか遅い日を、申込事由を理由として利用を開始した日とみなす。また、基本点数表で育児休業中の扱いとなる場合、適用対象外とする。 ※7 <u>利用開始希望日が令和9年3月31日までの利用申込みについては、利用申込時点で申込事由を理由として、児童が企業主導型保育事業を3日以上、有償で利用している場合についても、本項目の適用対象とする。また、利用開始希望日を令和9年4月1日とする利用申込み(市長の指定する日までに利用申込みがあったものに限る。)</u>に係る利用調整においては、<u>利用申込時点で申込事由を理由として企業主導型保育事業を週3日以上利用している場合も、本項目の適用対象とする。</u> ※8 <u>保育事業に該当しない事業所内保育事業(職場内託児所を含む。)</u>を従業員が利用する場合を除く。なお、※7により前項目の適用対象となる場合であっても、<u>本項目においては適用対象外とする。</u> ※9 <u>企業主導型保育事業の利用(こども家庭庁の定める企業主導型保育事業費補助金実施要綱の第3の規定による保育サービスの利用に限る。)</u>が終了した後も、<u>保育認定を受け利用申込みを継続しているものの保育施設又は保育事業の利用が保留となっている場合は、当初の利用開始希望日の属する年度以降も引き続き加点の対象とする。</u> ※10 同一の保護者が複数の手帳の交付を受けている場合でも、指数を重ねて適用しない。 ※11 該当者が家族内に複数いる場合でも、指数を重ねて適用しない。 ※12 当該保育施設又は保育事業を利用中のきょうだいについて、転所希望が出ている場合は、加点の対象外とする。きょうだいが保育事業の卒園児で卒園後の受入施設としての連携施設に内定しており、他の保育施設の利用申込みをしていない場合は加点の対象とする。 ※13 <u>保健福祉センター</u>所長が特に必要と認める場合には、別途調整指数を設けることができるものとする。 (3)順位表 <table><tr><td>1</td><td>要件間の優先順位(①～⑪の順)①災害 ②就労 ③就労内定 ④ひとり親・生活保護世帯の求職 ⑤疾病 ⑥障がい ⑦介護・看護 ⑧就学 ⑨出産 ⑩求職中 ⑪市外在住</td></tr><tr><td>2</td><td>祖父母等又は20歳以上のおじ・おば・きょうだい(介護・看護の対象でないもの)と同居していないこと。</td></tr><tr><td>3</td><td>当該保育施設又は保育事業の希望順位が高いもの。</td></tr><tr><td>4</td><td>養育している小学生以下の児童の人数が多い世帯。</td></tr><tr><td>5</td><td>利用開始希望日の前々年度の10月2日以降に出生し、前年度4月1日以前より本市内に居住していた児童であって、利用開始希望日の前年度において利用申込み(利用開始希望日が10月までのものに限る。)を行っているものの、保育施設又は保育事業の利用に関する内定を一度も受けていないもの。</td></tr><tr><td>6</td><td>経済的状況(合計所得金額(基準日が1月～8月の場合は前々年、9月～12月の場合は前年の合計所得金額)の低い世帯を優先する)</td></tr></table>	1	要件間の優先順位(①～⑪の順)①災害 ②就労 ③就労内定 ④ひとり親・生活保護世帯の求職 ⑤疾病 ⑥障がい ⑦介護・看護 ⑧就学 ⑨出産 ⑩求職中 ⑪市外在住	2	祖父母等又は20歳以上のおじ・おば・きょうだい(介護・看護の対象でないもの)と同居していないこと。	3	当該保育施設又は保育事業の希望順位が高いもの。	4	養育している小学生以下の児童の人数が多い世帯。	5	利用開始希望日の前々年度の10月2日以降に出生し、前年度4月1日以前より本市内に居住していた児童であって、利用開始希望日の前年度において利用申込み(利用開始希望日が10月までのものに限る。)を行っているものの、保育施設又は保育事業の利用に関する内定を一度も受けていないもの。	6	経済的状況(合計所得金額(基準日が1月～8月の場合は前々年、9月～12月の場合は前年の合計所得金額)の低い世帯を優先する)	(備考) 別途定めのある場合を除き、利用開始希望日を基準日とする。 (注釈) ※1 20歳以上65歳未満の同居の親族(祖父母等・おじ・おば・きょうだい)又は保護者住所地からおおむね1km圏内に居住する祖父母等があり、保育ができない場合は、これらの者についても保育の必要性を証明する書類を提出すること。提出がない場合は、原則として、これらの者に預けることが可能と判断する。 ※2 卒園後、保育認定を受け利用申込を継続しているものの保育施設又は保育事業の利用が保留となっている場合は、当該年度以降も引き続き加点の対象とする。 ※3 産前産後休暇取得中を含み、育児休業の開始日の前日が属する月の月末までに保育施設又は保育事業を退所した場合に加点の対象とする。 ※4 育児休業中に卒園することが見込まれており、前記項目の適用期間終了後、自主的に卒園を待たずに退所したものを含む。この場合において本来の卒園月の翌月までの利用調整では、加点の対象とはしない。 ※5 利用申込みについて保留となった場合、当該利用申込みにかかる同一年度内の利用調整においては、「利用申込時点」を「利用調整時点」に読み替える。 ※6 基本点数表において「1. 就労」「9. ひとり親(就労に関する項目に限る)」を適用する場合、「当該サービスの利用開始日」又は「就労開始日(復職日を含む。)」の1か月前の日の翌日」のいずれか遅い日を、申込事由を理由として利用を開始した日とみなす。また、基本点数表で育児休業中の扱いとなる場合、適用対象外とする。 ※7 <u>企業主導型保育事業及び職場内託児所等(保育事業に該当しないもの又は保育事業に該当するものの従業員枠を含む。)</u>を含む。 ※8 <u>企業主導型保育事業及び職場内託児所等(保育事業に該当しないもの又は保育事業に該当するものの従業員枠を含む)を除く。</u> [新設] ※9 同一の保護者が複数の手帳の交付を受けている場合でも、指数を重ねて適用しない。 ※10 該当者が家族内に複数いる場合でも、指数を重ねて適用しない。 ※11 当該保育施設又は保育事業を利用中のきょうだいについて、転所希望が出ている場合は、加点の対象外とする。きょうだいが保育事業の卒園児で卒園後の受入施設としての連携施設に内定しており、他の保育施設の利用申込みをしていない場合は加点の対象とする。 ※12 <u>センター</u>所長が特に必要と認める場合には、別途調整指数を設けることができるものとする。 (3)順位表 <table><tr><td>1</td><td>要件間の優先順位(①～⑪の順)①災害 ②就労 ③就労内定 ④ひとり親・生活保護世帯の求職 ⑤疾病 ⑥障がい ⑦介護・看護 ⑧就学 ⑨出産 ⑩求職中 ⑪市外在住</td></tr><tr><td>2</td><td>祖父母等又は20歳以上のおじ・おば・きょうだい(介護・看護の対象でないもの)と同居していないこと。</td></tr><tr><td>3</td><td>当該保育施設又は保育事業の希望順位が高いもの。</td></tr><tr><td>4</td><td>養育している小学生以下のこどもの人数が多い世帯。</td></tr><tr><td>5</td><td>利用開始希望日の前々年度10月1日に出生しておらず、前年度4月1日以前より本市内に居住していた児童であって、利用開始希望日の前年度の年度途中(10月利用開始分まで)より利用申込を行っているものの保育施設又は保育事業の利用に関する内定を一度も受けていないもの。</td></tr><tr><td>6</td><td>経済的状況(合計所得金額(基準日が1月～8月の場合は前々年、9月～12月の場合は前年の合計所得金額)の低い世帯を優先する)</td></tr></table>	1	要件間の優先順位(①～⑪の順)①災害 ②就労 ③就労内定 ④ひとり親・生活保護世帯の求職 ⑤疾病 ⑥障がい ⑦介護・看護 ⑧就学 ⑨出産 ⑩求職中 ⑪市外在住	2	祖父母等又は20歳以上のおじ・おば・きょうだい(介護・看護の対象でないもの)と同居していないこと。	3	当該保育施設又は保育事業の希望順位が高いもの。	4	養育している小学生以下のこどもの人数が多い世帯。	5	利用開始希望日の前々年度10月1日に出生しておらず、前年度4月1日以前より本市内に居住していた児童であって、利用開始希望日の前年度の年度途中(10月利用開始分まで)より利用申込を行っているものの保育施設又は保育事業の利用に関する内定を一度も受けていないもの。	6	経済的状況(合計所得金額(基準日が1月～8月の場合は前々年、9月～12月の場合は前年の合計所得金額)の低い世帯を優先する)
1	要件間の優先順位(①～⑪の順)①災害 ②就労 ③就労内定 ④ひとり親・生活保護世帯の求職 ⑤疾病 ⑥障がい ⑦介護・看護 ⑧就学 ⑨出産 ⑩求職中 ⑪市外在住																								
2	祖父母等又は20歳以上のおじ・おば・きょうだい(介護・看護の対象でないもの)と同居していないこと。																								
3	当該保育施設又は保育事業の希望順位が高いもの。																								
4	養育している小学生以下の児童の人数が多い世帯。																								
5	利用開始希望日の前々年度の10月2日以降に出生し、前年度4月1日以前より本市内に居住していた児童であって、利用開始希望日の前年度において利用申込み(利用開始希望日が10月までのものに限る。)を行っているものの、保育施設又は保育事業の利用に関する内定を一度も受けていないもの。																								
6	経済的状況(合計所得金額(基準日が1月～8月の場合は前々年、9月～12月の場合は前年の合計所得金額)の低い世帯を優先する)																								
1	要件間の優先順位(①～⑪の順)①災害 ②就労 ③就労内定 ④ひとり親・生活保護世帯の求職 ⑤疾病 ⑥障がい ⑦介護・看護 ⑧就学 ⑨出産 ⑩求職中 ⑪市外在住																								
2	祖父母等又は20歳以上のおじ・おば・きょうだい(介護・看護の対象でないもの)と同居していないこと。																								
3	当該保育施設又は保育事業の希望順位が高いもの。																								
4	養育している小学生以下のこどもの人数が多い世帯。																								
5	利用開始希望日の前々年度10月1日に出生しておらず、前年度4月1日以前より本市内に居住していた児童であって、利用開始希望日の前年度の年度途中(10月利用開始分まで)より利用申込を行っているものの保育施設又は保育事業の利用に関する内定を一度も受けていないもの。																								
6	経済的状況(合計所得金額(基準日が1月～8月の場合は前々年、9月～12月の場合は前年の合計所得金額)の低い世帯を優先する)																								

附 則 (令和〇年〇月〇日 こども青少年局長決裁)

- この要綱は、令和8年9月1日から施行する。
- 令和9年3月31日までに利用を開始するための児童福祉法(昭和22年法律第164号)第24条第3項の規定による保育施設等(保育所、認定こども園(子ども・子育て支援法(平成24年法律第65号。以下「法」という。))第27条第1項の確認を受けたものに限る。))又は家庭的保育事業等(家庭的保育事業、小規模保育事業又は事業所内保育事業(法第29条第1項の確認を受けたものに限る。))をいう。))の利用に係る調整については、なお従前の例による。ただし、この要綱による改正前の別表の(2)調整指数表の注釈※7の職場内託児所等(保育事業に該当しないもの又は保育事業に該当するものの従業員枠を含む。))中の保育事業に該当するものを改める内容の部分を除く。